

公開実用 昭和61-204372

⑯ 日本国特許庁(JP)

⑰ 実用新案出願公開

⑱ 公開実用新案公報(U)

昭61-204372

⑤ Int.Cl.*

H 01 R 11/12
4/18

識別記号

庁内整理番号

A-6625-5E
A-7227-5E

④ 公開 昭和61年(1986)12月23日

審査請求 有 (全 頁)

⑥ 考案の名称 接続端子金具

② 実 願 昭61-75087

③ 出 願 昭59(1984)6月29日
前意匠出願日援用

⑦ 考 案 者 三 浦 満 徳 東京都品川区二葉2-9-15 古河電気工業株式会社中央
研究所内

⑧ 考 案 者 高 木 友 和 滋賀県犬上郡豊郷町大字高野瀬380番地 近江電線株式会
社内

⑨ 出 願 人 古河電気工業株式会社 東京都千代田区丸の内2丁目6番1号

明 細 書

1. 考案の名称 接続端子金具

2. 実用新案登録請求の範囲

折曲げ形成した電線把持部の先端に連結部を介してボルト孔を穿った円盤部を一体に設けてなる接続端子金具において、前記電線把持部の先端面から連結部側端および円盤部の一部にかけて破損防止リブを一体に折曲げ形成したことを特徴とする接続端子金具。

3. 考案の詳細な説明

〔利用分野〕

本考案は接続端子金具の改良に関するものである。

〔従来技術とその問題点〕

従来 of 接続端子金具は、折曲げ形成した電線把持部の先端に連結部を介してボルト孔を穿った円盤部を一体に設けてなる構造である。

しかし、従来 of 接続端子金具は、電線把持部で把持した電線が振動した場合、電線把持部と

円盤部とを連結している連結部に曲げ応力が作用し、該位置が破断し易いという問題があった。また接続端子金具を腐蝕ガス雰囲気中に置くと電線把持部先端位置に応力腐蝕割れが生じ易いという問題があった。

〔問題点の解決手段〕

本考案は上記問題点を解決した接続端子金具を提供するもので、その構成は、折曲げ形成した電線把持部の先端に連結部を介してボルト孔を穿った円盤部を一体に設けてなる接続端子金具において、前記電線把持部の先端面から連結部側端および円盤部の一部にかけて破損防止リブを一体に折曲げ形成したことを特徴とするものである。

〔実施例〕

以下、本考案の一実施例を図面を参照して詳細に説明する。

本考案に係る接続端子金具 1 は折曲げ形成した電線把持部 2 の先端に、連結部 3 を介してボルト孔 4 を穿った円盤部 5 を一体に設けてなる

点は従来のもと同じであるが、本考案では電線把持部 2 の先端面 2 1 から連結部側面 3 1 および円盤部 5 の一部にかけて破損防止リップ 6 を一体に折曲げ形成したものである。破損防止リップ 6 は、電線把持部 6 と共に展開した状態で打ち抜き形成され、電線把持部 6 を折曲げ形成する際それと一体に折曲げ形成するものである。

この接続端子金具 1 は、第 6 図に示すように、電線把持部 2 で電線 7 を把持し、ボルト孔 4 にボルト 8 を通して使用するものである。破損防止リップ 6 は円盤部 5 の一部までしか形成されていないので、ボルト締め作業の際該リップ 6 が邪魔になることがない。

〔考案の効果〕

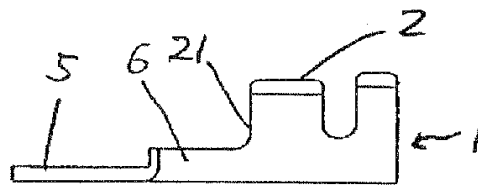
本考案は上記のように電線把持部の先端面から連結部側端および円盤部の一部に破損防止リップを折曲げ形成したので、連結部が破断し難くなると共に電線把持部先端位置の応力が緩和され、該位置で応力腐蝕割れが生じ難くなるという利点がある。

4. 図面の簡単な説明

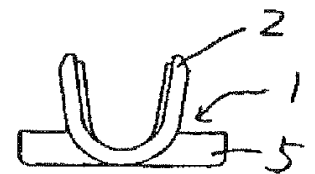
図面は本考案に係る接続端子金具の一実施例を示すもので、第1図は正面図、第2図は平面図、第3図は底面図、第4図は右側面図、第5図は左側面図、第6図は使用状態の斜視図である。

- | | | |
|------------|-----------|---------|
| 1 : 接続端子金具 | 2 : 電線把持部 | |
| 3 : 連結部 | 4 : ボルト孔 | 5 : 円盤部 |
| 6 : 破損防止リブ | | |

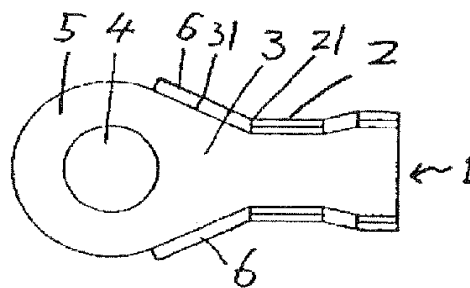
実用新案登録出願人 古河電気工業株式会社



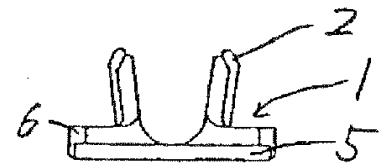
第 1 図



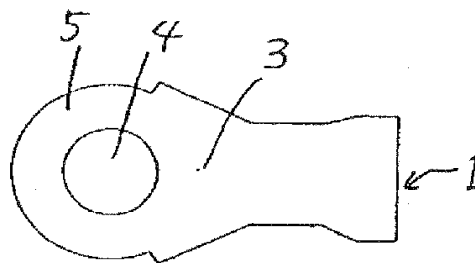
第 4 図



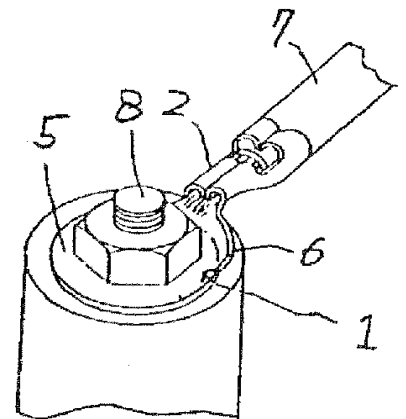
第 2 図



第 5 図



第 3 図



第 6 図

